2版

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：１２５０１

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2016～2020

課題番号：１６Ｈ０６５４９

研究課題名（和文）規範とアイデンティティ：社会的紐帯とナショナリズムの間

研究課題名（英文）Norms and Identity

研究代表者

酒井　啓子（Sakai, Keiko）

千葉大学・大学院社会科学研究院・教授

研究者番号：４０４０１４４２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　66,400,000円

研究成果の概要（和文）：新学術領域研究「グローバル関係学」で計画研究B01「規範とアイデンティティ」を担当する本研究課題は、ナショナルないしサブナショナルな関係性が、文化や社会運動のなかで表出される絵、音楽や映像、旗や服装、パフォーマンスなどの非言語的象徴を通じて浮き彫りにされることに着目し、これらの分析を通じて共同体内部における関係性を可視化することを試みた。その成果は、岩波書店「グローバル関係学」シリーズの第五巻「見えない関係を見せる」および第七巻「ローカルとグローバルを結ぶ」の一部として2020年度に出版された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近代社会科学においては個と思考が基本で、関係性と感情は前近代的とみなされてきた。しかし、「グローバル関係学」の必要性を促した21世紀的「新しいグローバルな危機」の出現により、感情や不可視的なものへの関心が高まった。本計画研究は非文字文化を対象にさまざまな異なるアプローチでみえない感情を浮き彫りにし、地域研究的手法の意義を再認識するものとなっている。領域全体は、地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞したが、そこでは「「みえていないものをみる」地域研究の強みをさらに強化しようとする試みを示し…地域研究の研究にも大きなインパクトをもたらした」との評価を得た。

研究成果の概要（英文）：This study group on Norm and Identity focused on the phenomenon that the national/ subnational relationship can be shown in the non-linguistic symbols such as visual arts, music, flags, costumes, performances, and graffiti which was drawn on the wall in the process of social movements, and tried to make the relational networks in the communities visible, which are often invisible and do not appear in an obvious way. The results of our analysis and arguments were published in the fifth volume (titled “Make Invisible relationship visible”) and seventh volume (titled “Connecting Local with Global”) of “Relational Studies on Global Crises”, a series published by Iwanami Shoten in 2020-21.

研究分野：地域研究、国際関係論

キーワード：地域研究　社会運動　ナショナリズム　シンボル

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

９・１１事件や「イスラーム国」の登場や、「アラブの春」と呼ばれる路上抗議運動が瞬く間に中東地域に拡大し、ひいてはニューヨーク、香港、台湾での市民運動にも影響を与えた、という出来事は、その伝播の驚くほどの速さと広さによって、世界を驚かせた。特に前者の 9・11 や「イスラーム国」のケースでは、テロ行為に及んだ犯人側、あるいは暴力的イスラーム主義者の「感情」もさることながら、テロ後のアメリカ社会から「感情」優先的な政策の数々が繰り出された。後者の社会運動の広がりにおいては、熱情的な連帯感の伝播が各地でみられた。つまり「感情」を取り上げないことには現実の政治を理解できない出来事が多数発生したのである。

一方で、９・１１事件は、中東、とりわけアラブ世界で蓄積されてきた「屈辱（humiliation）」の感情が、アメリカを対象にして発せられた事件だったととらえられる。また、９・１１事件後にブッシュ政権が展開した「テロに対する戦い」は、中東、イスラーム世界全体に、国際政治から排除され周縁化された自分たち、という被差別者としての意識を蔓延させた。2001 年から少なくとも十年間、中東とアメリカが関わる分野においては、感情が強く影響する形で国際政治が展開した。

また、シリア難民のヨーロッパ流入（2015 年）に呼応したヨーロッパでの反移民感情の高まりは、欧米諸国での排外主義の蔓延を招き、ヨーロッパでの政治の右傾化や、アメリカにおけるトランプ政権の出現といった政治的変化を生んだ。こうした一連の出来事も、感情という要素を抜きには論じられない。

このような背景から、「感情」のさまざまな表出形態である音楽や映像、文学などを取りあげて、そこに反映される「見えない関係」を分析・解明する必要があると考えた。さらにはスポーツによって発散される熱情の向かう方向性もまた、重要な事例として扱う。スポーツのなかでもサッカーは、フーリガンの行動がしばしば政治と結びついたからである。

２．研究の目的

計画研究 B01 は、狭い地域を起点とした社会的紐帯に基づくネットワークの、幅広い伸縮を支える社会的アイデンティティと国家の関係、そして国家や社会運動を支える規範意識の変化を扱い、伝統的社会紐帯意識によって取り結ばれた地域共同体のアイデンティティがいかにナショナルなアイデンティティに変質・動員されるか、あるいはナショナルなネットワークを超越・分断して機能するかといった、「感情」にまつわるさまざまな政治的現象を解明することを目的とした。そこでは、ナショナリズムの形成とサブナショナルなアイデンティティとの共存と相剋、音楽や映像、服装など、非言語的象徴を通じて浮き彫りにされるアイデンティティと社会的ネットワークの関係と変質、社会経済的変容とアイデンティティの関係、社会的「権威」の出現メカニズム、に注目し、「記憶・象徴・権威」をキーワードとして、以下の 3 点を目標とした。

1)規範とアイデンティティの時間的な継承（時間的変容）と空間的な広がり（移動）を見る上で「記憶」の意味を取り上げ、それがいかに地理的、時系列的に共有されるか。

2)非言語的な象徴に現れる文化的、政治的、歴史的意味の、空間的、時間的共有と差異を地域間比較。

3)社会において権威がいかに確立されるのかを開発などの経済的要因や、宗派ネットワーク、ジェンダー、「見た目」などの文化的歴史的要因との関連で分析すること。

３．研究の方法

以上のテーマについて、研究対象地域を絞って現地調査を、特に定性的分析手法を用いて行った。1)については、内戦によって発生した難民など紛争被害者の共生の記憶に光を当て、難民コミュニティへのインタビュー調査などを行う他、文学、映画、音楽などに表象されるアイデンティティの変容を、現地（エジプト、シリア）の研究者、芸術家との人的交流のなかで浮き彫りにした。2)については、イスラーム世界におけるヴェールが持つ表象としての意味を中央アジア、中東の事例について分析し、ジェンダーの視点を取り入れた比較研究を行っている。また社会意識や紐帯意識がスポーツや芸術にいかに表出するかを取り上げた。3)については、外国資本による大規模な土地開発など、開発という社会経済的変容の過程で見られる規範やアイデンティティの変容を捉え、そこにいかに権威関係が表出するかについて研究を進めた。これらの研究事業を通じて、本計画研究では住（移動する人々）、衣（ヴェール等）、娯楽（スポーツ、映像芸術）といった日常的な行為、振舞いにおける記憶が社会運動など集合行為にいかなる影響を与えているか、中東、中央アジア、中東欧、アフリカなどの事例を中心に比較研究を進めた。

４．研究成果

計画研究 B01 では、上記の目的に対して、個別事例の研究を通じて以下の成果を得た。

1.研究活動全般での成果

⑴ 規範とアイデンティティの時間的な継承（時間的変容）と空間的な広がり（移動）を見る上での「記憶」の意味：現代アラブ社会のなかでも特に紛争関連地域での若者層の社会意識、紛争に関する「記憶」を把握するために、アラブ映画や小説に着目し、エジプト(『マイクロフォン』2016 年)、シリア(『カーキ色の記憶』2017 年、『真昼の星』2018 年、『シリア三部作』2019 年)から映画監督を、シリア(2018 年)からはピアニストを招聘して映画上映と講演会を実施した。

⑵ 非言語的な象徴に現れる文化的、政治的、歴史的意味の、空間的、時間的共有と差異を地域間比較：服飾については、毎年一回京都大学にて連続ワークショップを開催、その報告書を同大学東南アジア地域研究研究所から出版した。そこでは、ムスリム女性のヴェールに関する一連の調査、ワークショップでは、中央アジアにおける独立以降のナショナリズムの神話にイスラーム的な色彩が施されていることが明らかになった。中東においても「ムスリムの伝統や知識、アイデンティティは一つ」との主張の現代性が明らかにされ、ムスリム・アイデンティティといった概念が、ナショナルな空間での政治・社会的変化と個人的経験や体験からの構成物であることがわかった。またスポーツについても、サッカーなどの大衆的スポーツが、国家＝上からのナショナリズムと下からのナショナリズムの交錯する場として重要であることが示された。

⑶ 社会において権威がいかに確立されるのかを開発などの経済的要因や、宗派ネットワーク、ジェンダー、「見た目」などの文化的歴史的要因との関連で分析：スポーツや音楽、服飾などの多様な文化や、社会運動の様式が普遍性を獲得して、「グローバル資本主義」により増幅される一方、それが人々の日常世界に浸透し、感情を大きく揺さぶる力を持っているが故に支配や抵抗の道具ともなり得ることに着目、それらの世界規模で展開されるネットワークの複雑かつ見えにくい関係性を可視化することを追求した。そのため、領域外の研究者を多く招いてワークショップを 2017 年度にはスポーツ(「サッカーとグローバル関係学」)、2018 年度には社会運動(「1968 年再考」)、2019 年度には音楽(「音楽とグローバル関係学」、フンボルト大学より講師招聘)を実施した。また、中東、アフリカ、南アジアで深刻な対立を惹起

した宗派対立の問題を取り上げ、欧米を基盤に先端的な研究を行っている専門家および現地の研究者を複数招聘し、国際ワークショップ(2017 年)、講演会(2018 年)を実施した。

2.グローバル関係学シリーズ第 5 巻、第 7 巻の刊行

上記研究集会の報告者と分担者、協力者の執筆により『グローバル関係学第 5 巻「みえない関係性」をみせる』(福田・後藤編)を 2020 年に出版した。また佐川、酒井及び宮地(2017～18 年公募研究者、2019 年より分担者)は『グローバル関係学第 7 巻　ローカルと世界を結ぶ』(五十嵐・酒井編、2020 年)に成果を発表した。

⑴　第五巻では、現代のグローバルなネットワークの、複雑で偶発的な形でさまざまな「関係性」が交錯するありさまを、計量分析に基づいて明らかにするのではなく、それらを表象する「モノ」や「現象」を取り上げて「見えない関係性」を浮かび上がらせ、それらの交錯の在り方を分析した。「見えない関係性」を浮き彫りにするシンボル・表象としてのスポーツ、音楽、装い、「革命・抵抗のイメージ」を取り上げ、上記 1．での研究活動の成果を凝縮した。

- スポーツは、サッカーが表象するナショナリズム（国威高揚から民族独立、抵抗意識の発現）やグローバル産業としてのサッカーなどをテーマに、グローバルなスポーツであるサッカーが浮き彫りにするさまざまな関係性を論じた。
- 音楽については、音楽が届けるメッセージの波及性はもとより、ナショナリズムの発揚の典型例と見なされる国歌を巡る問題（なぜそのメロディがある国で国歌化し別の国ではしなかったのか）など、ある種の音楽が広く世界的に普及しながら異なる意味を付与されたのか、という点に注目した。
- 装いについては、装いの伝統から近代への変容過程、それに伴い特定の装いがいかに何かのシンボルとされてきたか（伝統、宗教、出自民族・部族、思想[近代思想、平等思想、イスラーム思想など])、さらには特定の装いがナショナルなシンボルとして支配の道具と利用されるとともにファッションとして流布する、その意味の二重性に注目した。
- 「革命・抵抗のイメージ」については、「1968 年」の持つグローバルな意義と解釈・定着の多様性を始めとして、同様にグローバルに拡大した社会運動のローカル性とトランスナショナル性を、アラブの春など、シンボル化された反植民地主義運動、解放思想の事例を取り上げて分析した。

(2)　第七巻は、面的に国家を越境したり、ローカルなネットワークが国家・ナショナルな枠組みを経てトランスナショナル、ないしグローバルに連続的に展開するのではなく、広域ネットワーク、すなわち、ナショナル／state の枠組みを回避・飛び越えた形で、ローカル（あるいは周縁）が国際 NGO やグローバルな運動に繋がり、ローカルとグローバル／トランスナショナルが、双方向的につながる関係性を取り上げた。帝国主義やグローバルな思想や運動という広域ネットワークが支配地のローカルな共同体に与えた影響は、その後のナショナルな枠組みに対して対抗したり同質化したり、あるいはオルタナティブを提示したりとさまざまであり、そのグローバルとの関係がナショナル・ローカル関係に影響を与えたという点こそが、「主体中心的視座で見るのではなく関係があっての主体の浮彫化」という、新領域としての新奇の視点を示している。同様の視点は、現代的な側面では、先住民運動や環境問題がローカルな部分に表出し、それがナショナルを回避して国際 NGO と連携するなどといった事象にも表れていると考えられ、それを改めて 21 世紀のグローバル世界を見る上で重要な視座として打ち上げたい、というのが、この巻の目的であった。

そこでは、域外へと「亡命」した政治運動の、グローバル化したことによって生まれる域内環境からの遊離と運動方向性の変質の有無、ローカルな自治運動と国際 NGO などトランスナショナル・グローバルな運動体とのつながりによるナショナルに対する挑戦、ナショナルな枠組みにおける周縁であるがゆえのグローバルな環境問題、負の資源問題における争点化、といった論点において、本計画研究の成果を反映させた。特に最後の点ついては、社会意識としてのナショナルな領土意識と「住」としてのナショナルな土地とは、必ずしも合致せず、そこに経済的要素が重要であることが、エチオピアの土地開発事例から明らかになった。外国資本に雇用され転々と国内を移動する季節労働者の間にこそ、国土開発の主導者というナショナル・アイデンティティの創生と定着がみられることを示した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計22件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 佐川徹	４．巻 95
２．論文標題 エチオピアにおける食料安全保障政策と激変する農牧民の生活―大規模開発事業との関係に注目して	５．発行年 2019年
３．雑誌名 アフリカ研究	６．最初と最後の頁 13-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 佐川徹	４．巻 45
２．論文標題 漁労を始めた牧畜民―ダサネッチにおける生業をめぐる文化的評価とその変化	５．発行年 2019年
３．雑誌名 社会人類学年報	６．最初と最後の頁 41-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Sagawa, Toru and Hazama, Itsuhiro	４．巻 40(2)
２．論文標題 Naturalography of co-existence among East African pastoral societies: An Introductory overview of Japanese scholarship	５．発行年 2019年
３．雑誌名 African Study Monographs	６．最初と最後の頁 45-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/244850	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 宮地　隆廣	４．巻 81
２．論文標題 「よく生きること」と政治参加　エボ・モラレス政権および政権批判に対する批判的検討	５．発行年 2020年
３．雑誌名 イベロアメリカ研究	６．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福田 宏	4．巻 42
2．論文標題 東欧の虚実：地域研究の視点から考える	5．発行年 2020年
3．雑誌名 『東欧史研究』	6．最初と最後の頁 56-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 60(3)
2．論文標題 移動する人々の時代は続く	5．発行年 2018年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 46(8)
2．論文標題 イスラエルよりアメリカ/イランが敵 ： 後景化するパレスチナ (特集 パレスチナ-イスラエル問題 ： 暴力と分断の70年)	5．発行年 2018年
3．雑誌名 現代思想	6．最初と最後の頁 70-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 60(8)
2．論文標題 どけ、この文明は入れないぞ	5．発行年 2018年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 10-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 60(11)
2．論文標題 Si le grain ne meurt	5．発行年 2018年
3．雑誌名 みすず	6．最初と最後の頁 8-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 833
2．論文標題 変動する中東域内関係 : IS後のシリア、イラクとエルサレム問題を中心に	5．発行年 2018年
3．雑誌名 経済倶楽部講演録	6．最初と最後の頁 2-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小林正弥	4．巻 第15巻第１号
2．論文標題 「巻頭言　特集に寄せて」	5．発行年 2019年
3．雑誌名 『公共研究』	6．最初と最後の頁 27-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 酒井啓子	4．巻 45号 2
2．論文標題 「中東における安全保障観の変質 : 脱国家主体と国家主体との相互作用から論じる」	5．発行年 2017年
3．雑誌名 『国際安全保障』	6．最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田宏	４．巻 2017-II
２．論文標題 「2016年学界展望 政治史・比較政治（ロシア・東欧）」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『年報政治学』	６．最初と最後の頁 357-359
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山本薫	４．巻 21号
２．論文標題 「ラップと中東の社会・政治変動」	５．発行年 2017年
３．雑誌名 『総合文化研究』	６．最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 佐川　徹	４．巻 2018
２．論文標題 「友を待つ―東アフリカ牧畜社会における「敵」への歓待と贈与」。DOI無、査読無、オープンアクセス無	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『哲學』	６．最初と最後の頁 147-183
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 小林正弥	４．巻 第14巻　第1号
２．論文標題 「コミュニタリアニズムとポジティヴ心理学・コミュニティ心理学」	５．発行年 2018年
３．雑誌名 『公共研究』	６．最初と最後の頁 125-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20776/S18814859-13-1-P86	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 酒井啓子	４．巻 1
２．論文標題 現代イラク政治における部族と政治権力の関係（特集 部族と中東政治）	５．発行年 2016年
３．雑誌名 中東研究	６．最初と最後の頁 7-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 酒井啓子	４．巻 423
２．論文標題 中東問題の理解の仕方（特集 安保法制が壊す日本の「信頼」）	５．発行年 2016年
３．雑誌名 社会運動	６．最初と最後の頁 122-139
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田 宏	４．巻 39
２．論文標題 「国民楽派」再考に向けて：ドヴォジャークにおける社会進化論とオリエンタリズム	５．発行年 2017年
３．雑誌名 東欧史研究	６．最初と最後の頁 112-118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 福田 宏	４．巻 1005
２．論文標題 スロヴァキア：国民記憶院と『スロヴァキア国』をめぐる歴史論争	５．発行年 2016年
３．雑誌名 ロシア・ユーラシアの経済と社会	６．最初と最後の頁 13-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 福田 宏	4．巻 944
2．論文標題 書評：北村厚『ヴァイマル共和国のヨーロッパ統合構想：中欧から拡大する道』（ミネルヴァ書房、2014年）	5．発行年 2016年
3．雑誌名 歴史学研究	6．最初と最後の頁 39-42

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 帯谷知可	4．巻 84
2．論文標題 (研究ノート）中央アジアのムスリム定住民女性とイスラーム・ヴェールに関する帝政ロシアの植民地主義的言説	5．発行年 2016年
3．雑誌名 西南アジア研究	6．最初と最後の頁 40-54

掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕　計32件（うち招待講演　13件／うち国際学会　15件）

1．発表者名 Emi Goto
2．発表標題 "The State Regulations of Minority Religions in Comparative Perspective"
3．学会等名 Islam as a Way of Life: Circulation and Transformation of Islamic Normativity in Muslim and Non-Muslim World（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 佐川徹
2．発表標題 Pastoralist starts fishing: Dynamics of cultural value on non-pastoral activity among the Daasanach in East Africa, 2009-2015
3．学会等名 IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) 2019 Inter-Congress “World Solidarities”（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 宮地　隆廣
2．発表標題 モラレス政権の「よく生きること」と政治参加
3．学会等名 第40回日本ラテンアメリカ学会定期大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 酒井啓子
2．発表標題 Transformation of "source of the fame" in the eyes of political blocs in the post-2003 elections in Iraq
3．学会等名 Middle East Studies Association（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 酒井啓子
2．発表標題 「埋め込まれた関係性」概念を導入した紛争と国際政治分析の提案
3．学会等名 日本国際政治学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 Keiko Sakai
2．発表標題 HISTORY OF IRAQ-JAPAN RELATION: ECONOMY IN MUTUAL LOVE, POLITICS IN ONE-SIDE LOVE
3．学会等名 80 years of efforts for bridging Iraq and Japan: through academic cooperation based on Area Studies（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

１．発表者名
酒井啓子

２．発表標題
「平和と音」を巡る理論・思想・討論

３．学会等名
日本平和学会

４．発表年
2019年

１．発表者名
Kaoru, Yamamoto

２．発表標題
”al-Istishraq wa-l-Tarjama fi al-Yaban”（日本における東洋学と翻訳：アラビア語）

３．学会等名
Abu Dhabi International Translation Conference 2019（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
Kaoru, Yamamoto

２．発表標題
”Rihla al-Yabanynin ila al-alam al-Arab”（日本人のアラブ世界への旅：アラビア語）

３．学会等名
Orient Pioneers: Western Travelers in Arabia（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2019年

１．発表者名
山本薫

２．発表標題
「レバノン映画『判決、二つの希望』が突きつける問い：内戦の記憶をいかに語るか」

３．学会等名
中東現代文学研究会

４．発表年
2019年

1．発表者名
Kaoru Yamamoto

2．発表標題
“I Stayed in Haifa”: Emile Habiby’s Concept of Watan

3．学会等名
5th World Congress for Middle Eastern Studies（国際学会）

4．発表年
2018年

1．発表者名
Emi Goto

2．発表標題
Translations of the Qur’an and Gender Justice: The Case of Izutsu Toshihiko’s Work in Japan.

3．学会等名
5th World Congress for Middle Eastern Studies（国際学会）

4．発表年
2018年

1．発表者名
Emi Goto

2．発表標題
Is There a Goal behind the Standardization of Halal Certification Systems?

3．学会等名
International Symposium: Toward Better Understanding of Halal Certification System and Halal, Not Limited to Certification（招待講演）（国際学会）

4．発表年
2018年

1．発表者名
後藤絵美

2．発表標題
ヴェールをまとい始めた女性たち

3．学会等名
記憶と記録からみる女性たちと30年――装いにうつるイスラームとジェンダー

4．発表年
2018年

１．発表者名 帯谷千可
２．発表標題 「ウズベキスタンにおける女性の装いをめぐる30 年」
３．学会等名 記憶と記録からみる女性たちと30年――装いにうつるイスラームとジェンダー
４．発表年 2018年

１．発表者名 小林正弥
２．発表標題 「ポジティブサイコロジーの立場からウェルビーイングを考える」
３．学会等名 第18回日本認知療法・認知行動療法学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 福田宏
２．発表標題 「原発推進国家としてのチェコとスロヴァキア：旧東欧諸国における原子力政策の事例研究」
３．学会等名 比較政治学会
４．発表年 2018年

１．発表者名 酒井啓子
２．発表標題 Demise of Japan’s Independent Policy on the Middle East
３．学会等名 Embassy of Japan, Iraq（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2017年

１．発表者名
帯谷知可

２．発表標題
「ルモルとヒジョブの境界―社会主義的世俗主義を経たウズベキスタンのイスラーム・ヴェール問題」

３．学会等名
ワークショップ「装いと規範」

４．発表年
2018年

１．発表者名
後藤絵美

２．発表標題
「ニカーブをまとうまで―現代イスラームにおける『自己選択』の諸相」

３．学会等名
ワークショップ「装いと規範」

４．発表年
2018年

１．発表者名
山本薫

２．発表標題
創刊20周年記念シンポジウム「BANIPAL誌と日本におけるアラブ文学翻訳（アラビア語）」

３．学会等名
アラブ現代文学誌BANIPAL（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
山本薫

２．発表標題
「日本語からアラビア語への翻訳に関わる諸問題（アラビア語」」

３．学会等名
第4回翻訳と国際理解シンポジウム（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
Sagawa, Toru

２．発表標題
Availability and Violence in the Ethiopia-Kenya-South Sudan Borderland.

３．学会等名
International Workshop “Relation between Arms Availability and Violence”（招待講演）（国際学会）

４．発表年
2018年

１．発表者名
Takashi Maeno, Masaya Kobayashi, Jun Fudano, Miki Akiyama, and Etsuyo Nishigaki

２．発表標題
"Interdisciplinary Research on Positive Psychology and > Well-being Study in Japan"

３．学会等名
第５回　国際ポジティヴ心理学世界会議（国際学会）

４．発表年
2017年

１．発表者名
小林正弥

２．発表標題
「ポジティヴサイコロジーを活かした環境作りによるうつ病の予防」

３．学会等名
日本認知治療法・認知行動療法学会

４．発表年
2017年

１．発表者名
酒井啓子

２．発表標題
イラク・ファッルージャでの対IS作戦が抱える新たな問題

３．学会等名
中東調査会（招待講演）

４．発表年
2016年

１．発表者名
酒井啓子

２．発表標題
トランプ政権のアメリカと中東情勢

３．学会等名
経済倶楽部（招待講演）

４．発表年
2017年

１．発表者名
佐川徹

２．発表標題
敵と友だちになる方法―東アフリカの牧畜民から学ぶ紛争と共生

３．学会等名
東京学芸国際中等学校スーパーグローバルハイスクール特別授業（招待講演）

４．発表年
2017年

１．発表者名
帯谷知可

２．発表標題
20世紀初頭の帝政ロシアにおけるムスリム女性をめぐる議論―ニコライ・オストロウーモフ『ムスリム女性の権利の状況』を中心に

３．学会等名
ワークショップ「中央アジアのイスラーム、ジェンダー、家族―旧ソ連イスラーム地域研究と中東研究をつなぐ

４．発表年
2017年

１．発表者名
帯谷知可

２．発表標題
中央アジアのイスラームとジェンダー―古くて新しい課題

３．学会等名
国際シンポジウム「中央アジア地域研究の地平をひらく」（国際学会）

４．発表年
2016年

1．発表者名 山本薫
2．発表標題 パレスチナに思いを馳せてみる
3．学会等名 せんがわアートサロン＃４（招待講演）
4．発表年 2016年

1．発表者名 山本薫
2．発表標題 『シリア・モナムール』によせて
3．学会等名 シリアー戦火と愛の慟哭…その狭間を生きる命『シリア・モナムール』上映会・講演会（招待講演）
4．発表年 2016年

〔図書〕　計27件

1．著者名 酒井啓子	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 277
3．書名 現代中東の宗派問題　政治対立の「宗派化」と「新冷戦」　（シリーズ転換期の国際政治）	

1．著者名 帯谷知可・後藤絵美（共編）	4．発行年 2020年
2．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5．総ページ数 49
3．書名 装いと規範3――「伝統」と「ナショナル」を問い直す	

1．著者名 松本尚之、佐川徹、石田慎一郎、大石高典、橋本栄莉	4．発行年 2019年
2．出版社 昭和堂	5．総ページ数 288
3．書名 アフリカで学ぶ文化人類学	

1．著者名 松尾　秀哉、近藤　康史、近藤　正基、溝口　修平	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 496
3．書名 教養としてのヨーロッパ政治	

1．著者名 越野 剛、高山 陽子	4．発行年 2019年
2．出版社 北海道大学出版会	5．総ページ数 250
3．書名 紅い戦争のメモリースケープ	

1．著者名 長沢　栄治、鷹木　恵子	4．発行年 2020年
2．出版社 明石書店	5．総ページ数 260
3．書名 越境する社会運動	

１．著者名 小松 久男、野田 仁	４．発行年 2019年
２．出版社 山川出版社	５．総ページ数 320
３．書名 近代中央ユーラシアの眺望	

１．著者名 Hidemitsu Kuroki, Kaoru Yamamoto et.al	４．発行年 2018年
２．出版社 ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies	５．総ページ数 271
３．書名 Human Mobility and Multiethnic Coexistence in Middle Eastern Urban Societies 2	

１．著者名 山口　昭彦、酒井啓子　他	４．発行年 2019年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 352
３．書名 クルド人を知るための55章	

１．著者名 太田至、曽我亨、佐川徹他	４．発行年 2019年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 400
３．書名 遊牧の思想	

１．著者名 松村 圭一郎、中川 理、石井 美保、佐川徹他	４．発行年 2019年
２．出版社 世界思想社	５．総ページ数 224
３．書名 文化人類学の思考法	

１．著者名 帯谷知可・後藤絵美	４．発行年 2019年
２．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	５．総ページ数 59
３．書名 『装いと規範2―更新される伝統とその継承』（CIRAS Discussion Paper No. 85)、	

１．著者名 高馬　京子、松本　健太郎、後藤絵美	４．発行年 2018年
２．出版社 ナカニシヤ出版	５．総ページ数 250
３．書名 越境する文化・コンテンツ・想像力	

１．著者名 小林正弥	４．発行年 2018年
２．出版社 光文社	５．総ページ数 320
３．書名 武器になる思想	

１．著者名
成城大学法学会

４．発行年
2019年

２．出版社
信山社出版

５．総ページ数
498

３．書名
変動する社会と法・政治・文化

１．著者名
松尾秀哉・近藤康史・近藤正基・溝口修平

４．発行年
2019年

２．出版社
ミネルヴァ書房

５．総ページ数
460

３．書名
『教養としてのヨーロッパ政治』

１．著者名
酒井　啓子

４．発行年
2018年

２．出版社
講談社

５．総ページ数
224

３．書名
9．11後の現代史

１．著者名
村上勇介・帯谷知可

４．発行年
2017年

２．出版社
京都大学学術出版会

５．総ページ数
284

３．書名
『秩序の砂塵化を超えて――環太平洋パラダイムの可能性』

1．著者名	4．発行年
帯谷知可・後藤絵美	2018年
2．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所CIRAS	5．総ページ数 47
3．書名 『装いと規範―現代におけるムスリム女性の選択とその行方』（CIRAS Discussion Paper No. 80）	

1．著者名	4．発行年
橋本伸也編、福田宏他10人	2017年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 336
3．書名 せめぎあう中東欧・ロシアの歴史認識問題：ナチズムと社会主義の過去をめぐる葛藤	

1．著者名	4．発行年
高山陽子・越野剛編、福田宏	2018年
2．出版社 北海道大学出版会	5．総ページ数 240
3．書名 『紅い戦争のメモリースケープ：旧ソ連東欧・中国・ベトナム』	

1．著者名	4．発行年
桑山敬己・綾部真雄（編）、佐川　徹	2018年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 400
3．書名 『詳論 文化人類学』	

1．著者名 宮脇幸生（編）、佐川　徹	4．発行年 2018年
2．出版社 大阪公立大学共同出版会	5．総ページ数 290
3．書名 『国家支配と民衆の力―エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会』	

1．著者名 浅井篤・小西恵美子・大北全俊編、小林正弥	4．発行年 2018年
2．出版社 日本看護協会出版会	5．総ページ数 216
3．書名 『倫理的に考える医療の論点』	

1．著者名 酒井啓子、大澤真幸、山内志朗、中島隆博、田辺明生、末木文美士、河合俊雄、内海健、古市憲寿、芳賀学、島田裕巳	4．発行年 2016年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 288
3．書名 宗教とこころの新時代（岩波講座 現代 第6巻）	

1．著者名 佐川徹、宮脇幸生	4．発行年 2017年
2．出版社 大阪府立大学人間社会システム科学研究科	5．総ページ数 221
3．書名 『NGOとアフリカの市民社会』	

1．著者名 帯谷知可、和泉聖日	4．発行年 2017年
2．出版社 京都大学東南アジア地域研究研究所	5．総ページ数 44
3．書名 社会主義的近代とイスラーム・ジェンダー・家族 1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

新学術領域研究「グローバル関係学」 グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて
http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/group_B01/B01_Old%20Information.html
新学術領域研究「グローバル関係学」B01 規範とアイデンティティ
http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/group_B01/B01_index.html
計画研究B01
http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/group_B01/B01_index.html

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山本　薫 (Yamamoto Kaoru) (10431967)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・講師 (32612)	
研究分担者	後藤　絵美 (Goto Emi) (10633050)	東京大学・日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・特任准教授 (12601)	
研究分担者	帯谷　知可 (Obiya Chika) (30233612)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小林　正弥 (Kobayashi Masaya) (60186773)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	福田　宏 (Fukuda Hiroshi) (60312336)	成城大学・法学部・准教授 (32630)	
研究分担者	佐川　徹 (Sagawa Toru) (70613579)	慶應義塾大学・文学部（三田）・准教授 (32612)	
研究分担者	宮地　隆廣 (Miyaji Takahiro) (80580745)	東京大学・大学院総合文化研究科・准教授 (12601)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計11件

国際研究集会	開催年
Recruitment, Romanticism and Military Dress: Britain and the Bedouin in the interwar Middle East	2019年～2019年
国際研究集会 RSGC Webinar: The 2019 Iraqi Protests, One Year On: facts, aims, and prospects	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Online Book Launch 2: Samar Yazbek's Literary Reportage from Syria--Author's Message	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 「1968年再考:：グローバル関係学からのアプローチ 」	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 CIRAS Eurasian Seminar: Lecture by Dr. A. Malikov (Institute of History, Academy of Sciences of Uzbekistan) “Holy Groups in Central Asia: Translocality and Identity Variations”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Seminar: Turkish Society and Politics from a "Relational Studies on Global Crisis" Perspective	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The Marja'iyya of Najaf in the Age of Iran's Vali-ye Faqih (Guardian-Jurist): The Dynamics of a Transnational Competition by Dr. Elvire Corboz	開催年 2018年～2018年

国際研究集会 Symposium “Iraq after IS: the Referendum and Political Change”	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 Film Screening and Talk: "A Memory in Khaki" by Syrian director Alfoz Tanjour	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 International Workshop Producing Traditions, Knowledge and Identities: Muslim Intellectuals in the Contemporary World	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 "Political Parties and Movements in the Post-Arab Uprisings in the Middle East" by Dr. Larbi Sadiki	開催年 2017年～2017年

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関